

百金食堂(沖縄県那覇市)

(構成：真地団地自治会、真地団地婦人会、民生委員、社会福祉協議会、地域ボランティア(障がい者就労支援や大学生なども含む)等)

《活動主体の概要》

総人口： 3,933人

高齢者数： 865人

世帯数： 1,552世帯(うち団地世帯400世帯)

産業構造： 那覇市街地であるが、かつて栄えた商業地区。

地理的構造： 坂の途中に作られた市営住宅で、公共交通機関の利用が不便。

団地概況： 字真地地区でも、真地団地は団地外と比べて高齢化率が高い。

活動のきっかけ

昭和55年に建てられた真地団地は、今年で築36年となり、現在は他の団地と同様に高齢化が進み、様々な社会問題を抱えています。地域の高齢者の居場所づくりや健康づくりの目的でスタートした、那覇市ふれあいデイサービスも、17年目を迎えています。女性の参加者はいろいろな集う場所を持ち、お互いのちょっとした話や毎日の様子などをユンタク(沖縄の方言でお喋り)しながら生活しています。一方、男性は本当に不器用で、夫婦で生活していても会話が少なかったり、独居の男性によっては、1週間誰とも会話をしない人がいるなど、寂しい日常を過ごしている方が多いのも現状です。

団地内での高齢者の居場所づくりと個食(孤食)の改善を目指し、平成22年11月からスタートしたのが『百金食堂』です。毎週金曜日の昼食を、団地自治会事務所を会場に、団地自治会や地域ボランティア、社協職員などが参画し、1食100円の昼食会がスタートしました。

活動方法

毎週金曜日の昼食時間に自治会事務所を開放し、眞榮城会長の呼びかけで自治会や地域のボランティアなどが中心となってメニューを検討し、1食100円で参加者

へ提供します。温かい食事をみんなと顔を合わせて食べながら、ユンタクも弾みます。ちょっとした話題や気づきから、会長や自治会役員が団地内での課題を発見し、見守りの体制を強化したり、包括支援センターが実施する健康教育の内容へ取り上げたりしています。食事会には、約50~60人の参加があるため、下ごしらえも大変です。前日木曜日に行われるふれあいデイサービスへ参加した高齢者自らがユンタクをしながら、野菜を洗ったり切ったりと、下ごしらえを支えています。

運営については、那覇市自治会活動事業補助金も活用しましたが、食材購入等については、徴収する食事代だけでは十分ではないため、地域からの差し入れや低価の食材購入などの工夫により、何とか賄っている現状です。



<手作りの温かい昼食>

工夫点

家族が遠くへ住んでいる方や、独居高齢者の食生活は単調で、栄養も偏りやすい現状があります。また、孤食で会話がないことも大きな課題です。そのため、毎週金曜日は、栄養バランスの取れたメニューと楽しい会話で、少しでも充実した昼食を摂っていただくことと、小さな事でもいいので、高齢者自身や環境、体調の変化や思いの変化に気づく場として位置付けて、積極的に声をかけて継続して参加していただけるよう配慮しています。

成果

高齢者にとって地域における外出先が、定期通院の病院と自宅の往復のみの方も多くいますが、百金食堂が地域で固定して開かれるようになり、居場所づくりの一つとして定着しているだけでなく、定期的な見守りの体制強化にもつながりました。

現在は、週1回の百金食堂への参加を心待ちにし、お化粧品やお洒落をして、楽しみにして参加する高齢者も多くなりました。非日常の時間であり、社交の場としての生きがいくくりにも貢献しています。



< 団地からの参加者 ~ お洒落して ~ >

課題

百金食堂を始めるときに考えたのは、男性でも気軽に参加できる事業はないかと言うことでしたが、現在でも男性参加者は

2割弱程度です。今後も、取り組みとして継続しつつ、男性を参加させる工夫については、検討する必要性を感じています。

また、100円という安価な料金と、地域やボランティア等からの差し入れで運営していますが、運営はとても厳しいのが現状です。今後は、総合事業の組み合わせ等により、継続的で安定した取り組みができるよう進めていきたいと考えています。

代表者、事業者等の声

食を通して事業を興したこの百金食堂の噂が広がり、県内外の自治体や自治会等からの体験参加者が訪れるようになりました。時には、議員や役所職員等が参加され、それぞれの立場で食を介した居場所づくりの模索が続けられているようです。特に今後増え続けていく高齢者の孤食と見守りへ対応した事例として、このような取り組みが全国津々浦々で広がっていくことを希望しております。

その他

高齢化の進むこの真地団地自治会では、買い物難民への取り組みの1つとして、自治会事務所内の空きスペースを活用して、野菜や保存が可能な日用品の販売にも取り組んでいます。主な日用品の買い出しは、自治会長の眞榮城会長が担っています。自治会事務所をできるだけオープンにし、買い物をしてもらいながら、高齢者の課題やニーズを早期に発見する、ちょっとした見守りにもつながっています。ニーズを発展させる形で、常に「高齢社会」と向き合っている、高齢者に優しい自治会です。